

ワケ カタチには理由がある(?)

~DUKW(ダック)水陸両用車

第二次世界大戦の米国陸軍で使用された水陸両用車です。DUKWは、1942年設計(D)・水陸両用(U)・前輪駆動(K)・後輪駆動(W)を意味し、それを水陸に生息するアヒル(DUCK)にかけて、ダックと呼称したようです。連合軍の大陸侵攻時や太平洋戦線における諸島上陸の際、沖合の船から直接兵士を上陸させるなど、重要な役割を果たしました。外観はまるで船ですが、船体にタイヤなどの陸上走行構造を取り付けたということではなくて、汎用のGCMトラックのボディーを船型に改造した、といった方がよい構造です。ただ喫水線がかなり高く、積み荷を出し入れするサイドランプもないため、上陸先ではクレーンなど荷役設備がない限り、荷台からドラム缶等大型物資を荷下ろしすることは難しかったと考えられます。従って、側面に取り付けられる梯子で自ら乗り降りする兵士の輸送が主任務だったことでしょう。なお、現在、世界各地の観光地で、水陸両用車を用いたダックツアーが運営されていますが、この名称は水陸両用車輛の別名となった、この車輛名ダックに由来しています。実際に、DUKWの中古車両が使われているツアーもあるようですが、私が東京で乗車したダックツアーの車輛は別のもので、残念ながらミリタリー魂は満たされませんでしたw。



東京で運行されているダックツアーの車輛(撮影筆者)

【模型について】

イタレリ(Italeri)製1/72のインジェクションキットです。同社は1/35でもこの車両を出していますが、1/72のキットも小スケールながら良好なキットです。キットには荷台の幌は付属しないので、真鍮線で骨格を作ったあと、木工ボンドを溶かした水で濡らしたティッシュペーパーを用いて自作しています。(中川裕幸 2021年1月)